



第52号 Forward

編集責任者
沖縄尚学高校
PTA文化教養部
那覇市国場747
☎ 832-1767
FAX 834-2037
発行 (株)尚生堂
平成30年2月8日

暖かみ・厳しさ・知性

沖縄尚学高等学校PTA新聞 感謝と奉仕

E-mail query@okisho.ed.jp

HPURL http://www.okisho.ed.jp

「本学園が目指すもの」



名城 政次郎
学校法人 尚学学園理事長
沖縄尚学高等学校 校長

本校に入学した生徒が、「入学して良かった」。そしてその保護者は「本校に入学させて良かった」。卒業生は「沖尚で学んで本当に良かった」と思ってくれる学園を目指している。本校の二つの学校訓の理念が日常生活の中で、生徒・職員とも周りの人を感じさせる人間になってほしいと私は願っている。

一、怖れず・悔らず・気負わず

やるべきことに取り組む

一、暖かみ・厳しさ・知性を身につけ

感謝と奉仕の心を実践する

この二つの学校訓の理念を日常生活の中で実践してほしいのである。幸いなことに本校は、教育関係者からも高い評価を受けている。本土から何組もの教育関係者・団体が本校の見学に訪れている。そして、今月2月17日には本校の「35周年記念行事」の一環として「文部科学省中央教育審議会北山楨介会長の教育講演会」が本校において催されることになっている。このような要職にある教育関係者が、わざわざ本校に来て下さることに感謝している。この講演会にはPTAの会員は勿論のこと、一般の方々にも多数参加してほしいと願っている。

人間力と学力を伸ばす文武両道の正しい進学校を目指して、尚一層努力する決意を新たにしている。

活躍するOB・OG



医師 新 友利

私が沖縄尚学高校を卒業してからもう20年以上が経ちました。

二つ上の姉が進学したこともあり、宮古島から沖縄尚学へ進学を決めた私ですが、当時は同郷の友人も少なく、入学式の日、坂の上にある校舎を見上げながら、少し不安な気持ちになったことを、昨日のことのように覚えています。しかし、そんな不安はすぐに杞憂だったと気づきます。私自身が宮古島を離れ本島の高校への進学を考えた大きな理由が、その後の大学進学を見据えたからでした。「大学進学までの3年間をしつかりとした学校で学びたい」その気持ちが、私を大好きな宮古島から離れる決心をさせたのです。そんな思いを沖縄尚学での生活は満たしてくれました。豊富な知識を持った先生方、そして、生徒一人一人の今後を考え、その後の進路を提案してくれる進路指導、同じ目標を持って日々切磋琢磨する同級生たち、その全てのお陰で私は、第一希望だった東京女子医大へ現役で進学することができました。進学後は慣れない東京での生活と実習や講義の日々に、何度も何度もくじけそうになりましたが、やり遂げるための努力は必ず報われると高校時代に学んだことを思い出し、学生生活を送り、夢であった医師国家試験の合格を叶えることができました。医師になった私に指導医の先生が最初におっしゃったのが「患者さんから学ばせてもらっているという気持ちを持ってはいけない」という言葉でした。医師免許を取得したと言っても経験が全くない研修医は患者さんを診察しその経験から多くのことを学び日々、成長していきます。その時に謙虚でかつ感謝の気持ちを持ち続けることが大切なのです。これはまさに沖縄尚学の校訓でもある感謝と奉仕の精神そのものです。現在は医師としてだけでなく、いろいろな方との出会いを通じて、ありがたいことにメディアを通して多くのことを発信させてもらっています。その時にも感謝と奉仕の気持ち、そして怖れず、悔らず、気負わず、やるべきことに取り組むという高校生活で学んだことを私のベースとして大切にしています。このように私の軸を作ってくれた高校生活は、とてもかけがえのない日々だったのだと改めて感じています。様々な場所で沖縄尚学の卒業生に会うことがあります。分業が違えど皆さんベースの考え方がはつきりと定まっております。それはきっとと学生生活で培ったものなのだと思います。在校生の皆さんもこの気持ちをしっかりと受け継ぎつつ、自分の未来につなげていただけたら卒業生としてもとても嬉しいです。

ともり あた
友利 新 医師 (内科・皮膚) 琉球大学医学部 非常勤講師

沖縄県宮古島出身。東京女子医科大学卒業。同大学病院の内科勤務を経て皮膚科へ転科。現在、都内のクリニックに勤務の傍ら医師という立場から美容と健康を医療として追求し、美しく生きるための啓蒙活動や雑誌などで展開中。また、2014年の出産を機に、安心安全なベビースキンケア商品を欲し、「ベビースキンケア」というコンセプトで自ら研究開発、商品化、そして起業し、医師、母、社長と多忙な毎日を送っている。2004年第36回準ミス日本。2016年第9回バスマザー賞【経済部門】受賞。子育て応援・ママ応援大使。二児の母。美と健康に関する著書も多数。

自らを律する「業績主義」と「信頼主義」



副理事長・高校副校長
中学校長
名城 政一郎
博士(教育)

樋口会
長はじめ
保護者の
皆さん、
常日頃の
本学園へ
のご支援

ありがとうございます。

3学期になって、各学年とも今年度の目標達成に向けてラスト・スパートの最中です。特に高3生は、全員が「ベストの自分になってベストの大学へ」というプロジェクト30の目標をどの程度達成できるか。私はまるでプロ野球のジェネラル・マネージャー(総監督)のような心境です。3学年主任の石井先生が監督、3学年の指導にあたった先生方がコーチ、おそらく理事長はオーナーの心境でしょう。オーナー、総監督、監督、コーチに共通するのは、「きつとやってくれる」という思いです。しかし、勝っても負けても、冲尚の「選手たち」に対する「信頼」は揺るぎません。彼らが冲尚での3年間、あるいは6年間、何度も勝負の場を体験し、アチーバーとして成長してきたことは

紛れもない事実です。定期試験、模擬試験、沖縄伝統空手、英検、ボランティア、異文化交流、学校行事そして部活動。何度となく、必死にならざるを得ない環境、つまり「自主的に学ばざるを得ない環境」に身を置き、「やり切って出し切る」を実践してきました。必死の体験は人を成長させます。昨年本校で講演していただいたオリリンピック柔道3連続金メダリストの野村忠宏さんも「真剣な努力に無駄になるものはない」と話しておられました。「強くてやさしいグローバル教養人」の素地を固める、本校の教育をやり切った彼らの3年間に敬意を表し、感謝したいと思います。

私の母校明治大学のラグビー部に北島忠治という名監督がいました。1929年から亡くなった1996年までの67年間、明大ラグビー部の監督を務めた方です。北島監督の67年の在任中にライバルである早稲田大学のラグビー部の監督は30人以上代わりました。ちなみに、この間の明治と早稲田の対抗戦優勝回数は五分五分だったそうです。

早稲田の監督は一定期間に一定以上の成績をあげないと解任、北島監督は勝ち負けに関係なく監督を続けられる。私はこの違いを、早稲田の「業績主義」と呼んでいて明治の「信頼主義」と呼んでいます。早稲田と明治の方針の違いで、どちらも社会で受け入れられている考え方です。

私は、卒業生の皆さんには、自分の意志で、この二つの考え方を組み合わせて生きていってほしいと思います。高い目標を課される厳しい環境に自ら進んで身を置き(業績主義)、「勝って驕らず負けて腐らず」常に「やり切って出し切る」をモットーに、自らを信頼して歩み続ける(信頼主義)。そして、振り返ってみるとそこには、どうかしようとしてきた自分、人を安心させ、喜ばせ、幸せにしようとしてきた自分がいたことに気付く。冲尚が学校として提供してきた環境を自分で創造する。冲縄尚学で学んだ彼らにとってこれは決して難しいことはありません。

冲縄、日本そしてグローバル社会で、自分の得意を生かし自分も人も幸せにするグローバル教養人としての彼らの活躍を期待してやみません。卒業おめでとうございます。

野村忠宏 講演会を聴いて

小川桃佳(1の2)

「限界まで

取り組んでみたい」

私は今日の講演を聴いて自分を信じて努力し続けることはとても大切だと感じました。話を聞くまでは、野村さんは当時から強かったんだろうと思っていました。しかし、彼が逆境にもめげず強い意志を持って努力し続けていたことが分かり、自分を変革していくためには究極まで己と戦わなければならないのだと実感しました。私も部活や勉強でもっと上を目指したいと思っていますが、限界が来るまで頑張っているとは言えない逆に自分に甘えてしまっている部分があります。もっと本気で取り組むべきだと反省することができました。今回の講演はスポーツだけでなく様々なことに応用して考えることができます。人生で二回は、自分が本気でやりたいことを全力で挑戦してみたいと思いました。



「海邦養秀ネットワーク構築事業アルゼンチン共和国派遣」に応募して



中川 優子
(保護者)

2017年8月2週間、息子は遙か遠いアルゼンチン共和国へ行かせていただきました。

『沖縄県の若い世代を海外派遣し、現地の県系人、特に若い世代の交流・絆強化する』という目的の沖縄県プログラムがあることを知り、息子に伝えると、「アルゼンチン行ってみよう」との反応。書類選考通過後の面接でまさかの最年少参加者として合格し、家族一同信じられない気持ちでした。軽い気持ちで応募したはずの息子でしたが、選考から派遣されるまでの3ヶ月の間に宿泊研修を含む3回の事前研修があり、移民の歴史や現地のことを学ぶことにより、沖縄県の代表としての自覚が芽生え、派遣メンバーである県内各地の大学、高校の先輩方に支えられながら2週間のプログラムを楽しみ、無事に終わることができました。昨年は『沖縄スリランカプロジェクト』へ参加し『平和』を考え、学ぶ機会がありました。今回のプログラムやこれまでの参加してきたプログラムで得た経験や人脈を活かし、沖縄及び日本と海外の架け橋になってくれると信じております。

応募締切間際のお願ひにも関わらず、異文化交流の先生方や

担任の先生のサポート、ホームステイ先の皆様、関係者の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

「ウチナンチュ魂」を深く感じて



中川 僚麻
(1の7)

突然ですが、皆さんは世界にはどれくらい数のウチナンチュがいるのか知っていますか？ほとんどの人は知らないと思います。世界には、約42万人ものウチナンチュがいます。住んでいる場所は、北米、南米、ヨーロッパなど様々です。このプログラムはこれまでウチナンチュがいる様々な国へ派遣してきました。そこで今回は南米のアルゼンチンへの派遣だったのでぜひ行ってみたいと思います。

この研修に参加したと思うたきっかけは、「移民」というものが何か知りたかった、南米に行ってみたかったの二つです。私は最初、移民や沖縄の歴史について何も知りませんでした。ですが、一昨年の行われた「世界のウチナンチュ大会」で話を聞いたり、設置されていたパネルを見たりしているうちに沖縄についてもっと知りたいと思うようになりました。近年私たち高校生には移民や沖縄の歴史について学ぶ機会がほとんどありません。そのため、

学びたくても学べませんでした。そこで、私がこの研修に参加して同年代の人たちに沖縄について伝えようと思いました。私は、自分たち沖縄に住んでいる人々「ウチナンチュ」が沖縄の歴史を忘れてはいけないと思います。私は、このような「ウチナンチュ魂」を深く感じる事ができ、とても充実した研修になったと思います。また、私は最年少ということでも先輩方に引っ張ってもらい、とても頼りになり、ありがたかったです。

私は去る12月に台湾REPにも参加してきましたが、両国共通しているのは「人が優しい」ということです。どこにいても優しくしていただいて、私も見習わなければならないと思いました。本当に行つてよかったです。海外に行かないとわからないことはたくさんあるので、皆さんも沖縄尚学のプログラムなどに参加してぜひ行ってみてください！



英姿颯爽

「尚武の心」

発揮さる



去る12月13日(水)、県立武道館アリーナにおいて第2回高校校内空手演武大会が開催されました。午前は、上地流、剛柔流、小林流、松林流の4流派による普及型1の集団演武に始まり、各学年流派別代表による団体戦予選、各クラス対抗戦予選を行いました。午後は、各流派別団体、各流派の個人、各クラス対抗戦それぞれの決勝戦を張りつめた空気の中終えました。生徒達は、心身、技能共に成長著しく充実した演武を披露し、演武の合間の離合集散もきびきびとしていて、最後まで観覧をなさっていた保護者の皆様は勿論、空手や教育関係者を魅了した大会になりました。

国際文化科学コース 感謝祭ランチ会



比嘉 良安
(文化教養部 部長)

米国では毎年11月の第4木曜日に家族で食卓を囲み、感謝祭を祝います。国際文化科学コースでは、昨年11月24日に1・3学年合同で、感謝祭ランチ会を開催しました。プログラムは生徒主導で進行され、感謝祭の意義やそれぞれが感謝する事を発表したりと、有意義な時間を共有する事ができました。ランチタイムでは普段口にするここのない七面鳥の丸焼きや大きな塊のポークハムに舌鼓を打ち、みな満足そうな表情を浮かべていました。



学・年・報・告

1 学年委員長 桃原奈津子

早いものであつという間に高校一年生の学校生活を終えます。子供たちの目まぐるしい成長を日々見守る中で、この一年を振り返りいろいろな事が思い出されます。子供たちが練習や準備を重ねて思いのままに自らを表現した体育祭。中学校時代とは明らかに異なる雰囲気の中で、成長した身体を存分に生かして楽しみ友情を育みました。オープンキャンパスにおいては各クラスの模擬店、舞台発表やミニコンサート、沖縄尚学の素晴らしさを対外的に発信することができ、子供たちにも冲尚生である自覚が一層強くなったことと思います。きつと今春も冲尚に魅力を感じた新たな仲間が増えることでしょう。グローバルな文化力養成を目指す中、取り組んだ空手演武会。たくましく演武をする子供たちに魅了され、冲縄にルーツを持つ空手の神髄に触れる事ができ、感動いたしました。冲尚が掲げる「怖れず」「侮らず」「気負わず」の精神のもとで子供たちを見守る私達PTAの雰囲気も大変よく、改めて先生方や保護者の皆様の協力があったのPTA活動だと実感いたしました。

2 学年委員長 島袋 均

今年のPTA学年行事は「受験生の親に役立つ教育講話」として、10月21日台風接近の中、105名の方にご参加いただきました。

進路部主任の宮城直人先生には「高2からの受験対策」として、AO・推薦一般入試等自分に合った入試方法を選ぶ事の大切さを教えていただきました。冲尚は、早慶上智等を筆頭に227大学554学部指定校推薦枠があるがあまり利用されていない事は正直驚きました。

次に現役で東大推薦合格を果した生徒保護者の名幸万里子さん(高校PTA副会長)には、「親としてできるサポート」として高2から合格までの体験を時系列で詳しくお話しいただきました。情報収集の大切さ、志願書記入に有利になる沢山の武器を持てるよう高2の内でボランティア、異文化交流等に積極的に取り組むこと、又、様々な費用負担(受験料、交通費、宿泊費等)についても具体的なアドバイスをいただき、親が出来るサポートの重要性を再認識した大変貴重な時間でした。

3 学年副委員長 濱田 香

3 学年は、7月22日「大学進学に向けた情報交換会」として、進路学習会を行いました。

当日は、各コースに分かれ先生方や先輩保護者から経験談や具体的なお話を伺うことで「今、

必要とされる情報」を得ることができました。参加された保護者からは「先輩保護者からの話を聞いて、親の役割としてやるべき事が分かり不安が軽くなりました。また奨学金についてもきめ細かく教えていただくことで、大学進学に向けて家族で真剣に話し合うことができました」と感想がありました。

時代の流れと共に、大学受験体制も大きく変わり学力だけでなく「人間力」も大きく評価される時代になりました。沖縄尚学で学んだ知力と空手やボランティアで培った魅力的な人間力をもつて、子供たちが大きく羽ばたいてくれることを信じています。

最後に、学年行事を行うにあたりご協力いただいた先生方、先輩保護者の皆さま、学年役員の皆さんに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

表彰

沖縄県高等学校PTA連合会より個人の部で仲本久司さんが表彰されました。これもひとえにPTA会員の皆様のご協力によるものです。ありがとうございました。



祝 卒業 勇往邁進!!



高校3学年委員長
西平 幸美

卒業生の皆さん、3年間、温かくお見守り下さいました保護者の皆さま、ご卒業誠におめでとうございます。

沖縄尚学の教育理念、方針、文武両道の正しい教養を身につけて巣立って行く皆さんを心から誇らしく思います。希望と喜びを抱き、高い目標を掲げ様々なことにチャレンジして下さい。そして、途中行き詰まってしまう時は、冲尚で培った「人間力」の精神を思い起こして負けないうで下さい。私から山本有三の「路傍の石」より教師の言葉を送らせていただきます。「たつたひとりしかない自分を、たつた二度しかない人生を、ほんとうに生かさなかつたら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。」この言葉を胸に羽ばたいていけるよう祈願致します。

最後に、温かくご指導下さいました理事長先生をはじめ副理事長先生、先生方、関係者の皆さま、心より感謝、お礼申し上げます。



高校3学年主任
石井 淳

贈る言葉

33期生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆さんと共に過ごした6年間および3年間は私にとって何物にも代えがたい大切な宝物です。そして、そんな皆さんを見送るのはとても寂しいのですが、同時に何かを成し遂げた充実感と喜びも感じています。

皆さんは本日この学び舎を巣立ち、それぞれの進むべき道へと向かいます。その道は決して平坦ではなく、時に迷うこともあるでしょう。私もまだまだ道半ばで日々上手いかわからない事も多いのですが、そんなときは2つの言葉を思い出して自分自身を奮い立たせています。1つは「逃げない」、これは芸術家岡本太郎氏の言葉です。果敢にチャレンジしていくことの尊さを清々しく表現しており、自分でも何かできるのではないかと思わせてくれます。そして、もう1つは皆さんをずっと後押ししてくれた「怖れず 侮らず 気負わず」です。私自身も今までこの言葉に何度か勇気づけられ、助けられました。言葉に何度も勇気がもたらされ、数多くのチャレンジを経験する皆さんがもし挫折そうになったときは、これらの言葉を思い出してください。そして今まで支えてくれ

た保護者や周囲の人たちへの感謝の気持ちを忘れず、更に逞しく成長していくことを楽しみにしています。

33期生の皆さん、また会いましょう。



三年一組担任
桑江 涼

卒業生のみんなへ

高校進学の子供の皆さんとは高1から3年間、中学入学の生徒の皆さんとは中学1年生から6年間、体育の教員もしくは担任として一緒に過ごさせて頂きました。私にとって持ち上がりで入学から卒業まで見届けた生徒は皆さんが初めてになります。忘れられない出来事ばかりです。嬉しくて叫んでしまったこと、腹を抱えて大笑したこと、強く君たちを叱ってしまったこと、悔しくて我慢できずに涙を見せしめたこと、どれも今は自分にとって特別な思い出です。皆さんとの出会いは一生の財産になりました。

贈る言葉

君たちがこれを読んでいるのはいつ頃だろう。卒業式の前日？卒業後？十年後や二十年後でしょうか？教子に必ず伝えてある言葉を贈ります。

『人生の成功者になれ』
これから先も君たちの成長や活躍を心から応援しています。

☆誰よりも輝く星(ひと)になろう☆
☆誰かを照らす星(ひと)になろう☆

中学1年4組2年5組3年1組地区陸上&駅伝代表メンバー
高校1年6組2年1組3年1組、男女バレーボール部員
そして沖縄尚学33期生の皆さんへ
君たちの成長していく姿を間近でみることでできて幸せでした。

君たちに出会って本当に良かったです。ありがとうございます。
近い将来、社会人として共に頑張りましょう。



三年二組副担任
眞栄田 義昭

沖尚スピリッツ

あなた方は、勉強は勿論、空手、英検、異文

化交流、ボランティア等を実践してきました。本校は「沖縄伝統空手」を全国初の正規のカリキュラムとして取り入れました。12月開催第2回「空手演武大会」は、圧巻の集団演武、流派別の対抗戦や個人戦、演武前後の離散集合の動作も好感が持てました。空手はまさに「文武両道」の本道を行くあなた方のオキナワスピリッツです。

英検の取り組みが県内外のスピーチ大会で活かされました。幾度となく栄冠に輝いたのがその証左です。英語圏等ではカルチャーショーツを経験し、諸生活様式の違いで軌轢を生みながらも乗り越え、この国の人でも受け入れられることの出来た寛容さを育んできました。ボウダーレスのこの頃、交流経験は人生を豊かなものにするでしょう。また、非常時に対応できるよう日頃から校内外で募金活動、老人ホームのお年寄りを空手披露などで楽しませるボランティア活動を「当たり前に」実践してきました。

卒業後はこのような沖尚スピリッツを継続し、怖れず悔れず、負わず、強くてやさしいグローバル教養人になることを期待します。卒業おめでとうございます。



三年三組担任
小山 佳孝

人生の勝負所

力を発揮するために

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、この一年、勉学に多大な努力を払ってきたことと思います。希望に叶う形で進路が決定した人、するであろう人、そうでない人、そして、まだまだ努力を継続しなければならぬ人、いろいろな立場の人がいるでしょうが、いずれの人にとっても、この一年は今までの人生の中で精神的なプレッシャーが最も強くかかった期間だったのではないのでしょうか。しかし、これから皆さんは受験勉強などとは比較にならないくらいに厳しい経験をしていくことになります。つまり、ほとんどの人にとって、人生の勝負所は、もつとあとに訪れます。今はまだ、そのための助走期間です。来るべき勝負所で存分に力を発揮できるように、実力を蓄え成長していくて欲しいと思います。そのような成長をするためには、努力はもちろん必要ですが、それが適正なものであることも重要です。自分にとってあまりにも簡単すぎる

ことはほとんど意味がありませんし、又、全く何も出来ずに失敗に終わってしまうような身の丈に合わない大きすぎることをやろうとするのも、やはり無意味です。今の自分の実力に応じた適正な努力が何であるかを考え、それを行っていく、その繰り返しが成長に効果のあることだと思います。最後に、私自身の言葉でなく申し訳ないのですが、饒の言葉として、大学院での私の恩師の言葉を。もう少し具体的な状況があつての言葉だったので、私自身が年齢を重ねてみて、色々思うこと多く、また印象にも深く残っている言葉です。

『出来るはずのこと』と『出来ること』との間に、自分のやりたいことを見つけていることは常に可能だし、それをやることは正しいと信じる。』



三年五組担任
松田 紀雄

出合いを大切に

卒業生の皆さん、並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。この3ヶ年間、諸君は各種行事、例えば、渡嘉敷島研修、球技大会、研修旅行、オープンキャンパス、空手演武大会、体育祭などを通して精神的にも肉体的にも大きく成長してきました。クラスの団結力を育みながら逞しくなっていく姿を間近に見られたのがとても誇らしく思います。クラスの間とは勿論、部活動を通して先輩・後輩、恩師など多くの人の出合い、共に笑い、泣き、感動し、友情を深め、たくさん学び、多くの思い出も創ったと思います。多感な時期を共に過ごした高校時代の友は一生の「友」といえます。母校を旅立った後、大学・社会人とそれぞれの道に進みますが、いつまでも変わらぬ良き友でいてください。将来に向かって、自分を信じて描いた夢を必ず実現して下さい。ご活躍を期待しています。



三年六組担任
小緑 元氣

卒業する皆さんへ

卒業おめでとうございます。内進生は中学三年次から四年間、外進生も高校入学時から三年間、皆さんと同じ学年で過ごしてきました。中学の卒業式の時にもメッセージを書きま

したが最近の事のようにです。遠征、研修旅行、空手演武大会、学園祭、体育祭と様々な行事を共に経験しました。先生自身も初めての行事もあり、皆さんと新鮮な気持ちで一緒に取り組めたと思います。この月日を振り返ってみた時、幸せだったと思えるのは全ての行事を共にできたということです。私が知らない皆さんがいま、全部の行事に同じ学年で関わる事ができ、全ての思い出を皆さんと共有することができました。以前にも学年集会でお話しましたが、二つの学年と長期に渡って関わる事は簡単な事ではありません。私達教員はたくさん先生の思いを引き継いで新たな一年をスタートさせます。そんな中で卒業する最後まで皆さんの成長を見るのができたことは、本当に幸せでした。卒業はゴールではありません。これからがスタートです。たくさんの人達の思いを支えに感じながら、これからの長い人生を大切に過ごして下さい。皆さんの人生が幸せでいっぱいになることを祈っています。



三年七組担任
大城 文伸

歩み続けろ！33期生！

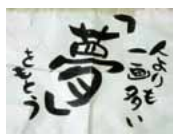
沖縄尚学高等学校33期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

これから先「自分の道」を「自分の力」で「自分で切り開き」そして「歩む」のです。つまり、時、転んだ時、疲れた時は、是非、沖縄尚学で出会った仲間達先生方に甘えてください。一休みしてください。そしてまた立ち上がって「歩む」のです。

最後に、私が大切にしている言葉を送り、これからの皆さんのご活躍を祈念いたします。

人生で最も苦しい
いやな辛い損な場面を
真つ先に微笑を以て担当せよ

本気
克己



三年八組担任
大西 宣昭

大きな世界で

挑戦し羽ばたいて...

第33期生の皆さん卒業おめでとうございます。

今どんな気持ちですか？進路も決まってる新しい生活に大きな期待を抱いている人、入試がこれからで不安と闘いながら卒業を迎えている人、様々だと思います。周りの人への感謝の言葉を忘れずに、卒業式に臨んでくれたらと思います。

皆さんは6年または3年間沖縄尚学で学び、これから大きな世界へ飛び立つようとしています。皆さんが思っている以上にたくさんの体験を通して成長しています。これから先は自ら考え行動する事が求められます。皆さんは次の新しいステージでどんな新しい事、難しいと思われ、ことにチャレンジしてもらいたいと思います。若さは皆平等に与えられ、そしていつか必ずなくなっていくものです。時間は待つてくれません、今すぐにも行動を始めましょう。体力も感性も時間も十分にある皆さんが、大きな世界で挑戦し羽ばたいてくれるのを楽しみにしています。そしてまた時々はその新しい世界を我々に話をしに学校に顔を出して下さい。その時の話を楽しみに待っています。



三年九組担任

吉元 由紀子

心に満開の桜を

卒業生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの輝かしい2年間に担任として立ち会えたことを誇りに思います。

皆さんにとって、高校3年生は、どんな一年間となったのでしょうか。しっかりと自分自身と向き合い、目標達成へ向けて悔いなく前進できたでしょうか。結果がどうなったとしても、努力してきたことは自身を裏切りません。いつかあらゆる形で自分自身に返ってきます。安心して自分が選んだ道を通り直ぐ進んでください。これから先、激動の時代を生きていくための知恵を身につけなければなりません。荒波に揉まれながら、たくさんの人に尊敬されるような人間になってください。

日本一早い桜祭りが行われるこの季節、私の桜の木には1000を超える小さな花が咲きました。鮮やかなピンク色の桜のように皆さんの心にも満開の桜が開くことを祈念して、饒の言葉と致します。

贈る言葉



三年十組担任

高橋 和仁

卒業生のみならず卒業後さまざまな分野に進出し活躍の機会を得るでしょう。そのときに必ず必要となるものはなんでしょうか。渡辺昇一（もともと）と英文学者、『知的生活の方法』を著し有名となり、本業の英文学者よりもむしろ評論家として名前が通っている。はかつて大学生生活の本需品としてエアコンの購入を力説しました。日本の暑さは耐え難く、これがないと大学生生活の知的生活はおよそ不可能であるというのが主張の趣旨です。これは今から40年以上も前に言われたことですが、温暖化の進む今日の現況にあつてはまた真理としての地位を保持する主張です。ただし、エアコンが学生生活においてまだ普及していなかった40年前と違って今日の大学生が部屋にエアコンを持たないという事態はすこし想定しがたいことです。

それならば、みなさんの今後の知的生活、人間としての本当に豊かな生活のために必要とされるものを一つだけあげるとしたらそれはなんでしょうか。新しい世界に発するみなさんに是非このことを考えて頂き、そしてその答えをいつか教えてほしいと思います。



トーマス ミッチェル
(3の11)担任

I know it is almost cliché to say this, but it is most certainly true that I have learned as much from 3年11組 as they have from being students here at Okisho. We all stepped blindly into the IBDP world and fumbled at times, but in the end, grew immensely as we alternately fulfilled our roles as the facilitator and facilitated.

As much as something big seems like it is coming to an end, let me assure you, this is just beginning of your future. I can only guarantee you of a single thing: Your journey will provide you with horizons that you haven't even imagined yet; with dreams beyond the most vivid you have ever experienced, and challenges that will make your most difficult days here at Okisho seem about as difficult as tying your shoes.

3年11組: You have faced a challenge that only a few Japanese students have ever faced. Never forget your success in facing that challenge! Take both the faults and the victories and carry them close to your heart, and never forget, the most important part of life's journey is not the destination, but rather the journey itself.

In short, everything that ever was, is, and will ever be, is up to you.

Live, love, and be the gentle-person that you want to be. Never forget that the story of your life is written by you, and the arc of the story is defined by the goodness of your heart, and the content of your character.

Good luck and Best Wishes!

進路が明確に定まり、改めて情報収集してみると、より適した大学や受験方法を見つけたことが出来ました。それが学習院大学の公募推薦でした。沖尚のキャリアプログラムに沿ってこなしてきた英検、空手、漢検、ボランティア、異文化交流の実績が更なる自信となり、背中を押してくれました。志願理由書の作成時にはなかなか納得のいくものが出来ず、当初かなり苦ししましたが、上野先生の核心を突いたアドバイスのにより、自信をもって提出出来る内容に仕上げることが出来ました。回り道ではありましたが、娘が本当に好きなことを学ぶ為に進学出来ることに喜びを感じております。最後に、今までお世話になった皆様に感謝申し上げます。

周りを安心させる人間に



三年十二組担任

宮城 和江

卒業生の皆さん、これまで我が子を大切に育ててくれた保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。在学中は多くのことを学んだと思います。いま、貴方達一人一人が大きく成長し、果立つていく姿を目のあたりにし、こんなに嬉しいことはありません。

貴方達は本校の文武両道の伝統を引き継ぎ、



三年六組 保護者

名幸 万里子

回り道して良かったね

旅たつ我が子へ

私たち夫婦は「好きなことを学ぶために大学に行きなさい」と言い続けてきました。しかし、将来の就職を考えると、娘は一番好きな美術の道に進むことを躊躇していました。そんな娘の転機は、高2の秋に県主催のウイーン美術研修募集のお話を木原先生から聞いた時のことでした。美術系の大学を受験することに迷いが無くなったのです。それからの娘は今まで押し殺していた気持ちが爆発したかのように美術に打ち込み、研修でも沢山の経験と知識を得て帰ってきました。

進路が明確に定まり、改めて情報収集してみると、より適した大学や受験方法を見つけたことが出来ました。それが学習院大学の公募推薦でした。沖尚のキャリアプログラムに沿ってこなしてきた英検、空手、漢検、ボランティア、異文化交流の実績が更なる自信となり、背中を押してくれました。志願理由書の作成時にはなかなか納得のいくものが出来ず、当初かなり苦ししましたが、上野先生の核心を突いたアドバイスのにより、自信をもって提出出来る内容に仕上げることが出来ました。回り道ではありましたが、娘が本当に好きなことを学ぶ為に進学出来ることに喜びを感じております。最後に、今までお世話になった皆様に感謝申し上げます。



三年十一組 保護者

東恩納 盛人

思えばあなたとの出会いから幾つもの体験を乗り越えて今現在に至ります。いつも他人の意見を重視する小さなあなたに「自分の意見を持ち、決断し行動しなさい」とよく突き放したのを覚えています。今では、家族の繋がりで、国内外の友達との繋がりで、他人の意見を聞き尊重し、自分の意見を持ち決断し、行動できる人へ成長していく姿が段々として見えてきました。とても喜ばしい事です。時々は腹立たしさや寂しさもありますが、これから社会人になるにつれて意見や行動に責任が常に付きまとい、理不尽な事もある社会の中で、あなたの行動がマイナスに働き心折れる時が来るでしょう。行動の仕方やタイミング、価値観の違いの把握など解決方法は幾つもありますが、あなた自身へのケアにはなりません。その時は、家族や今まで築いてきた仲間達の繋がりに頼る事を忘れないで下さい。焦らず寄り道をしながら、まっとうに生きて下さい。

※まっとうばー(正直)



センター試験も終わり、各私立大学、各国公立大学の二次試験に向けて大部分の高3生が奮闘の最中、既に公募や自己推薦、スポーツ推薦などで合格を勝ち取った生徒達の手記の一部を紹介します。今後の後輩達の参考になればと思います。



3の3
上地 沙来
琉球大学
工学部

私は琉球大学工学部工学科建築学コースのAO試験を受験しました。

もともと私は高校三年生に進学する前まで、県外の大学への進学を目指していました。家計の事情から目標を県内に絞ることになり、県で唯一建築コースのある琉球大学を受験することになりました。それまで般試験の対策しかしてこなかったので不安はありましたが、本当にたくさん



3の5
吉井 恵三
広島大学
文学部

私は三重県の中学校出身で、学校だけでなく沖縄での生活にも不安がありました。しかし、すぐに友達ができ、親切で熱心な先生方のおかげで充実した生活を送ることができました。勉学の面では、質問に優しく丁寧な回答でくださる先生や、習得目標などのシステムにより、日々継続して勉強できる環境があると感じます。また、個性的な先生がたくさんいらっしゃるので、毎日の学校をとても楽しく過ごすことができました。そして、年を通して冲尚でしか味わえないような行事がたくさんあり、そこでの計画や挑戦する力、失敗した時

の先生方が協力してくださったおかげで無事に合格することができました。書類審査、面接と口頭試問、プレゼンテーションなどの試験がありましたが、特に与座先生には最初から最後まで本当にお世話になりました。大きな支えの下で安心して受験させてくださったことに感謝しています。また、般試験にはない専門的な入試課題を行えたことは、入学前の準備としてとても良い経験になったと思っています。大学へ進学してもお世話になった先生方への感謝を忘れずに頑張っていきます。ありがとうございました。

の反省など、人間力の向上に役立つと感じました。一方で文学部に所属し、文武両道を目指してきました。始めは大変でしたが、部活で培った体力や精神力が勉強に生かされ、勉強で得た知識が部活で発揮できたという相乗効果が生まれました。自分自身の成長を実感することができてとても嬉しく思います。また、必修化されている沖縄伝統空手では先日黒帯を取得し、空手を通しての異文化体験によって視野が広がりました。今後も空手を通して異文化交流をしたいと思います。最後に、私は広島大学文学部に合格することができたのですが、私の力だけではなく、これまでたくさん先生方や友達に支えられて達成できたことなのでとても感謝しています。この3年間は幸せな時間であり、冲尚に来て良かったと確信しています。



3の6
松元 玲奈
早稲田大学
文学部

私が高校生活の中で一番力をいれたのは部活動です。1年の後半に入部し、2年の春休みに引退するまで様々な活動を行ってきました。多くの高校と交流したり、広島へ行き原爆のことを学んだことは大きな財産となりました。また英語で行うディベートやスピーチコンテストにも参加し、どうすれば自分の視野を広げることができるかを考えながら過ごした3年間で、早稲田大学を目指したのはさらに自分の世界を広げたいと思ったからです。多くの体験をすることで自分が学びたいことや、目指したい場所をみつけれられることがあります。私はそれを早い段階で見つけることができたため、勉強のモチベーションを高めることができました。



3の8
金城 隆宏
防衛大学校
人文・社会科学専攻

できるだけ早く第二志望を決めておけば、その大学に向けての対策や下調べができ合格を手繰り寄せられると思う。本格的な受験勉強は部活をやっている人は2年時高校総体終わっても遅くはないと思う。ただ、一年の頃から日々のチェックテストや定期考査でしつかりやっていると基礎学力があがり受験勉強に本腰いれるときにはとても役立ち、成績がオール5かそれに近い成績であれば、推薦をとることもでき二石一鳥である。また、夏休み

た。しかし3年の8月に行われた大事な模試を目前として、急に自信を失いにも手につかなくなったことがあります。そんな時、自分の目指している大学に通っている先輩から聞いた話を思い出したり、自分がなぜその大学を強く志望しているのか考え直してみると立ち直ることができました。その大学に行きたい気持ちとがどだけ強いかは勉強を頑張る力になります。

また冲尚で必須とされている英検2級の習得は大学受験にとっても役立ちました。推薦入試では資格や実績が重要になることが多く、英検や課外活動に励んでいる仲間が周りにいる冲尚はとてもよい環境でした。普段から習得目標を勉強することでチェックテストや定期考査、模試の成績を上げることができました。自分にできることを後悔なくやりきったことが大学合格につながったと思います。

前に偉大なる計画を立てるのはいいことだが、休み中継続できる可能性は低く、計画通りにできたとしても頭に入っていないこともあるから、意識的に勉強したほうが身に付く。ずっと勉強しただけではなく、時には遊びに行くなどメリハリをつける方がよい。また、模試のたびに復習ノートを作りしつかりと復習することが大切だ。もし、センター前の一般推薦が希望なら、その大学の過去問対策を講じるべきであるが、面接なども含めて担任や先生方、友達の協力を仰いでやることをお勧めしたい。特に私の場合は小論文や集団討議、面接などがあったため、担任や先生そして冲縄地方協力本部の方々の協力のおかげでしつかりとした対策がとれました。



3の12
我那覇真子
筑波大学
体育専門学群

私は3年間テニス部に所属し、体育コースで勉強と部活の両立をしてきました。毎年、プレッシャーはありましたが、定期テストの対策をしつつ遠征や合宿などの厳しい練習を乗り越えてきた自分を信じて、目標を見失うことなく頑張ってきました。そして、2年と3年のインターハイのダブルスにおいて全国優勝し、そして今回、筑波大学体育専門学群に合格することができました。勿論、合格する為に、必死に小論文の対策を始め口頭試問の練習など取り組みました。大学生活は、今よりもっと厳しい環境になりますが、冲尚で培った「人間力」を土台にして充実した4年間を送りたいと思っています。

後輩の皆さん！いろいろなことで悩む時期だと思えます。そんな時でも「今」を無駄にしないで全力投球することが、明日の自分に繋がります。今日も意味のある日にできれば、明日、明後日、一週間、一ヶ月、半年、1年、さつと大きな実績を築くはずですよ。努力したことは実ります。何かあれば、先輩としてアドバイスします。ので相談してください。健闘を祈ります！

平成29年度 表彰者一覧 9月～2月

文化活動

第46回沖縄県高等学校音楽コンテスト 弦楽器独奏の部
銀賞 比嘉 良叔 (1の9)

第72回九州合唱コンクール 銅賞

第41回沖縄県高等学校文化連盟 囲碁将棋秋季大会
囲碁の部 男子団体 2位 狩保龍之介 (1の2) 嘉陽 一輝 (1の5)
白井 聖 (1の3)

第52回全沖縄県高等学校英語弁論大会
《第1部》優秀賞 金城 綾華 (2の9)
《第2部》最優秀賞 東恩納亜仁香 (1の9)

沖縄県高等学校席上揮毫大会
書道専門部賞 宮城夏樹 (1の1) (九州大会代表)
優秀賞 親泊楓香 (2の6) 宮里薫子 (1の8)

第65回全琉小・中・高校 図画・作文・書道コンクール
書道部門 優秀賞 座安りあ (2の7) 福地佑香 (2の7) 山城諒子 (1の8)
金城佑樹 (1の7) 宮里薫子 (1の8) 徳田万理愛 (1の3)
宮城夏樹 (1の1)

SOJO English Challenge 2017
オリジナリティー賞 喜屋武瑚乃海 (2の9) 仲川ひかる (2の9)

学園祭・オープンキャンパス 第41回沖縄県高等学校総合文化祭
美術・工芸部門 最優秀賞 田畑奈那子 (2の4)

第13回沖縄県高校生中国語発表大会 中級の部 2位 金城 綾華 (2の9)

平成29年度 全日本通信珠算競技大会 沖縄県大会
高等学校の部 団体総合競技 優勝 森 淑史 (2の3) 大久保果林 (2の5)
個人総合競技 優勝 知念優里奈 (2の5)
2位 森 淑史 (2の3) 大久保果林 (2の5)
3位 幸地えりな (1の2) 王寄 拓海 (1の5)
新垣 凜 (2の9) 幸地ゆりな (1の4)
森 淑史 (2の3) 幸地えりな (1の2)
グローアップ賞 フラッシュ暗算競技 優勝 森 淑史 (2の3) 知念優里奈 (2の5)
2位 大久保果林 (2の5) 幸地えりな (1の2)
玉寄 拓海 (1の5) 幸地えりな (1の2)
読上算競技 優勝 森 淑史 (2の3) 知念優里奈 (2の5)
2位 玉寄 拓海 (1の5) 幸地えりな (1の2)
幸地ゆりな (1の4) 森 淑史 (2の3)
読上暗算競技 優勝 森 淑史 (2の3) 知念優里奈 (2の5)
2位 大久保果林 (2の5) 玉寄 拓海 (1の5)
新垣 凜 (2の9) 幸地えりな (1の2)

平成29年度全日本通信珠算競技大会 高等学校の部
団体総合競技 3位 (全国順位) 沖縄尚学高等学校
個人総合競技 2位 (全国順位) 知念優里奈 (2の5)
14位 (全国順位) 大久保果林 (2の5)
森 淑史 (2の3)
幸地えりな (1の2)
24位 (全国順位)

第29回沖縄県高等学校書道展
優秀賞 宮城夏樹 (1の1) 山城諒子 (1の8)

優良賞 座安りあ (2の7) 福地佑香 (2の7) 親泊楓香 (2の6)
仲里琴絵 (2の6)

第18回全沖縄県高等学校英語ディベート大会
2位 英 ひなこ (1の7) 玉川 瑞基 (2の9)
伊野波さや (2の9) 仲川ひかる (2の9)

那覇市青少年特別賞
珠算 森 淑史 (2の3)
テニス 前田 優歩 (2の10) 我那覇真子 (3の12)

第27回九州地区高等学校英語スピーチコンテスト
《第2部》優勝 東恩納亜仁香 (1の9)

第36回全九州珠算選手権大会 高校・一般の部
団体総合競技 優勝 知念 勇磨 (3の4) 森 淑史 (2の3)
知念優里奈 (2の5)
個人総合競技 優勝 「そろばん九州一位」 知念優里奈 (2の5)
2位 知念 勇磨 (3の4) 森 淑史 (2の3)
大久保果林 (2の5)
優良賞 幸地えりな (1の2)
読上算競技 優勝 森 淑史 (2の3) 知念優里奈 (2の5)
2位 知念 勇磨 (3の4) 幸地えりな (1の2)
読上暗算競技 優勝 森 淑史 (2の3) 知念優里奈 (2の5)
2位 知念 勇磨 (3の4) フラッシュ暗算競技 優勝 森 淑史 (2の3)
2位 大久保果林 (2の5)

第19回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜 実行委員長賞 吹奏楽部

第13回九州地区高等学校英語ディベート大会
ベストディベーター賞 伊野波さや (2の9)

第22回西安碑林国際臨書展
U23優秀賞 前堂寛登 (3の8) 宮城夏樹 (1の1) 親泊楓香 (2の6)
U23奨励賞 福地佑香 (2の7) 宮里薫子 (1の8)
U23秀作賞 上江洲都乃 (3の3) 座安りあ (2の7)

2017年度 沖縄タイムス伝統芸能選考会
舞踊 最高賞 末吉りんか (3の6)

第19回シヨパン国際ピアノコンクールin Asia 沖縄地区大会
高校生部門 銀賞 太田 梨胡 (1の9)

沖縄キリスト教学院主催 第29回高校生英語弁論大会
2位 豊田 真菜 (1の9)

第1回全九州高等学校総合文化祭沖縄大会
書道部門 九州高等学校文化連盟賞 前堂 寛登 (3の8)

SIBA第14回スピーチ&ミュージックコンテスト
英語スピーチ・ストーリーテリング部門 3位 新崎世梨奈 (2の9)
英語スピーチ・ストーリーテリング部門 特別賞 田場 太基 (2の3)

全国珠算競技大会「クリスマスカップ2017」 高校・一般の部
読上暗算競技 日本一 森 淑史 (2の3)
男子団体 3位 森 淑史 (2の3)
フラッシュ暗算競技 3位 森 淑史 (2の3)
読上算競技 25位 森 淑史 (2の3)
個人総合競技 23位 森 淑史 (2の3)
優良賞 森 淑史 (2の3)

スポーツ活動

平成29年全日本ジュニア柔道選手権大会
女子個人52kg級ベスト8 登川 優衣 (3の12)

平成29年度 沖縄県高等学校空手道選手権大会
男子個人組手 3位 上地 琉真 (1の10)
男子団体組手 3位
女子個人組手 3位 嘉数 萌乃 (1の8) 林 愛由菜 (1の8)
女子団体組手 3位

2017年第67回沖縄県高等学校野球秋季大会 優勝

2017年第42回沖縄県高等学校野球1年生大会 優勝

平成29年度 沖縄県高等学校新人陸上競技大会
女子 走り幅跳び 3位 仲宗根実玖 (1の6)

平成29年度 沖縄県高等学校新人体育大会 空手道競技
男子総合 4位 男子団体組手 3位
男子個人組手 3位 安里 寛龍 (2の2)
女子団体組手 2位
女子総合 3位
女子個人組手 2位 林 愛由菜 (1の8) 3位 嘉数 萌乃 (1の8)

平成29年度 沖縄県高等学校新人体育大会 テニス競技
男子団体 優勝 (13連覇) 女子団体 優勝 (8連覇)

第92回三菱全日本テニス選手権大会
女子ダブルス ベスト16 前田 優歩 (2の10) 我那覇真子 (3の12)

平成29年度 沖縄県高等学校新人体育大会 柔道競技
男子団体 優勝
男子個人 60kg級 優勝 渡口雄一郎 (2の10) 2位 大城 盛舟 (1の10)
66kg級 優勝 佐久原義斗 (2の10)
73kg級 優勝 當間 龍輝 (2の10) 2位 波平 泰輝 (1の10)
81kg級 優勝 仲高 爽由 (2の10) 2位 三浦 大樹 (1の10)
100kg級 優勝 新垣翔二郎 (2の10) 2位 吉門 辰哉 (2の10)
100kg超級 優勝 當間 健多 (2の10) 2位 屋田 維心 (1の10)
女子団体 優勝
女子個人 48kg級 優勝 宮城杏優菜 (1の10) 52kg級 優勝 吉田 涼 (1の10)

63kg級 優勝 山添桃花 (1の10) 78kg超級 優勝 外間 蘭 (1の10)

第14回全沖縄空手・古武道選手権大会
高校生女子の部 優良賞 宮里 真鶴 (1の9)

平成29年度九州高等学校新人体育大会 柔道競技
男子団体 2位

第40回全国選抜高等学校テニス大会 九州地区大会
女子団体優勝 前田 優歩 (2の10) 稲手 梨紗 (2の10) 仲村 姫加 (2の10)
比嘉 恭加 (2の10) 仲宗根 雅 (2の10) 平林 夏帆 (1の10)
長濱 帆帆 (1の10) 新城 未亜 (1の9) 石川 さくら (1の3)

第37回全九州高等学校空手道新人大会 南ブロック
男子団体組手 5位 女子個人組手 3位 林 愛由菜 (1の8)

第17回おきでん旗争奪 第三十六回沖縄県なぎなた大会
個人試合 男子の部 優勝 上村 武玄 (1の5)

第40回全国高等学校柔道選手権大会 (QAB紫雲旗争奪沖縄県大会)
男子団体 優勝 (12連覇)
男子個人 60kg級 優勝 大城 盛舟 (1の10) 2位 渡口雄一郎 (2の10)
66kg級 優勝 佐久原義斗 (2の10)
73kg級 優勝 當間 龍輝 (2の10) 2位 波平 泰輝 (1の10)
81kg級 優勝 仲高 爽由 (2の10) 2位 長澤 祐大 (2の10)
無差別級 優勝 新垣翔二郎 (2の10) 2位 吉門 辰哉 (2の10)
女子団体 優勝 (13連覇)
女子個人 48kg級 優勝 宮城杏優菜 (1の10) 52kg級 優勝 吉田 涼 (1の10)
63kg級 優勝 山添 桃花 (1の10) 無差別級 優勝 外間 蘭 (1の10)

平成29年度 沖縄県高等学校空手道春季大会
男子団体組手 3位 男子個人形 5位 玉城優弥 (2の7)
女子団体組手 3位

第54回沖縄県柔道選手権大会 男子個人
優勝 (高校生初) 崎山寛至 (3の12)

第32回沖縄県女子柔道選手権大会 女子個人
2位 外間蘭 (1の10) 3位 佐久原唯 (3の12)